

令和7年度 水循環アドバイザーリスト(有識者)

(別紙3)

氏 名 (敬称略)	所 役 属 職	支 援 分 野																						専門分野	備考 (主な経歴)
		水循環全般	計流域の水循環策定	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成	民間の取組	地域行政	広域連携		
石丸 香苗	福井県立大学共通教育センター教授										○		○				○	○		○				森林生態学 自然資源利用	2004年京都大学農学研究科博士後期課程単位取得退学、博士(農学)。財団法人砂防フロンティア整備推進機構、防災コンサルタント業を経て、2014年岡山大学地域総合研究センター准教授、2018年福井県立大学学術教養センター准教授、2021年同教授、2025年改組により現職。専門は森林生態学と地域研究(ラテン・アメリカ)で、近年は日本や熱帯地域で、森林等の資源利用と人の暮らしに関する研究を行う。九頭竜川懇談会委員、福井県森林審議会委員などを務める。著書(分担執筆)に「森林生態学」(朝倉書店)、「ノーライフ・ノーフォレスト」(京都大学出版)など。
遠藤 崇浩	大阪公立大学 現代システム科学域教授	○	○		○	○	○				○											○		地下水管理 水資源 水管理 環境政策 公共政策	2002年慶応義塾大学大学院法学研究科修了、博士(法学)。筑波大学大学院生命環境科学研究科等を経て、2012年大阪府立大学(現大阪公立大学)現代システム科学域准教授、20年より現職。専門は地下水等を対象とした水管理政策などの環境政策学。長野県安曇野市水環境審議会会長、大阪狭山市水循環協議会会長、西条市地下水保全及び適正化利用審議会会長など、各地の水循環施策の推進に関する有識者会議構成員を務める。近年は、災害時における地下水利用(災害用井戸)の普及策に注力しており、大規模災害時の地下水利用等について記された「非常時地下水利用指針(案)2025」を公開。
風間 聡	東北大学大学院 工学研究科教授	○	○					○		○	○	○		○			○		○	○				水文学 水工学 水資源工学	1995年東北大学大学院工学研究科博士課程修了、博士(工学)。筑波大学講師、タイ国アジア工科大学院助教授、京都大学防災研究所水資源環境研究センター客員教授等を経て、2010年より現職。専門は水文学、水工学、水資源工学。国土交通省最上川水系流域委員会委員長や文部科学省ユネスコ国内委員会委員などを歴任。著書に水文学(コロナ社)。
神谷 浩二	岐阜大学 工学部教授				○	○	○			○		○						○			○	○	○	地盤工学 地下水工学	1993年岐阜大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻修了、1999年博士(工学)。1993年岐阜大学工学部助手などを経て、2016年より現職。専門は地盤工学と地下水工学であり、主に地盤内の浸透問題に関する研究に従事し、近年は濃尾平野を対象に地下水涵養機能の維持・向上や地下水資源の有効活用などに関する研究を進める。2003年には産官学民連携による岐阜地下水環境研究会を立ち上げ、地域の地下水問題への対処などに取り組む。現在、東海三県地盤沈下調査会顧問、岐阜県環境影響評価審査会会長、愛知県環境影響評価審査会委員、岐阜県高山市水源地域保全審議会委員、岐阜県西濃地区地下水利用対策協議会顧問などを務める。1997年度土木学会論文奨励賞、2014年度地盤工学会論文賞(和文部門)をそれぞれ受賞。
工藤 亮治	岡山大学 環境生命自然科学学域 准教授	○			○			○		○		○					○							水文学 農業水文学 水資源学	2009年岡山大学大学院博士後期課程修了、博士(環境学)。農研機構農村工学研究部門を経て2016年より現職。専門は水文学、農業水文学、水資源学。水循環モデル、データ同化手法、アンサンブル気象予測を用いた実時間河川流況予測、気候変動や土地利用変化などの流域改変による水循環の変化予測、農業水利用などの人間活動が流域水循環に与える影響評価など、気候変動適応や防災・減災対策、健全な水循環の実現への貢献に向けた活動を行っている。
蔵治 光一郎	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	○	○			○	○		○	○		○		○					○	○	○	○	○	森林と水循環 森林と災害 水源林の管理	1989年東京大学農学部林学科卒、青年海外協力隊員としてマレーシア・サバ州森林局森林研究所で勤務。1996年東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了、博士(農学)。東京大学農学部附属演習林千葉演習林、東京工業大学大学院総合理工学研究科、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林愛知演習林、生態水文学研究所で勤務し、2017年より現職。専門は森林水文学、森と水と人との関係。編著書『緑のダムの科学 減災・森林・水循環』(築地書館)、『森の「恵み」は幻想か』(化学同人)、『「森と水」の関係を解き明かす』(全国林業改良普及協会)など。
小森 大輔	東北大学 グリーン未来創造機構 特任教授	○	○	○	○			○	○	○	○	○					○	○		○	○	○	○	水文学 社会水文学 防災減災学 水資源工学 農業気象	2005年東京大学農工大学大学院博士課程修了、学位(農学)。東京大学生産技術研究所特任研究員、同特任助教、同特任准教授、東北大学准教授、京都大学防災研究所水資源環境研究センター客員准教授、ノッティンガム大学客員研究員などを経て、2023年より現職。国土交通省「北上川水系河川計画懇談会」、「東北の砂防を考えるアドバイザー会議」、環境省「気候変動の影響観測・監視の推進に向けた検討チーム」などにて委員を務める。水文学・社会水文学を中心とした、農学・工学・環境科学・地球科学・災害科学／安全学の分野間連携、異分野融合を推進しながら、人間社会－自然の水循環や環境の関係や地域環境問題について教育・研究を行っている。そのほか、森林保全と森林活用の活性化を両立する持続可能な地域社会形成を目的とした「流域治水と流域経済発展の両立に向けた河川内および森林樹木の活用を目指す産官学研究会」にて代表を務めている。

令和7年度 水循環アドバイザーリスト(有識者)

(別紙3)

氏 名 (敬称略)	所 役 属 職	支 援 分 野																						専門分野	備考 (主な経歴)
		水循環全般	計画の水循環	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成	民間の取組	地域行政	広域連携		
榊原 厚一	信州大学 理学部理学科 助教 (先鋭領域融合研究群 山岳科学研究拠点 併任)	○				○	○			○	○	○												地下水水文学 トレーサー水文学 森林水文学 環境動態解析	2018年筑波大学大学院生命環境科学研究科持続環境学専攻 修了、博士(環境学)。日本学術振興会特別研究員(DC1)を経て、2018年より現職。専門は地下水水文学、トレーサー水文学、森林水文学、環境動態解析。信州地方、原子力発電所事故の影響を受けた森林、半乾燥地(中国やタンザニア)などを中心に意欲的にフィールドで地下水・水流出・水質に関する調査・研究等を行うとともに、地方公共団体の地下水に関する調査・分析等についても多数支援等を実施。国際水文学科学協会(IAHS)・国際水文地質学会(IAH)の小委員会委員、IAHS 国際トレーサー委員会(IGT)委員を務める。
阪田 義隆	金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系 准教授	○			○		○			○	○	○					○		○	○				地下水水文学 水理地質学 地球統計学 地下熱エネルギー工学	土木建設コンサルタント会社にて水文調査に係わる業務に従事し、2010年に博士(理学)を北海道大学にて取得。北海道大学助教を経て、現職に至る。2021-2022年度には、カナダブリティッシュコロンビア大学の客員教授を務める。豊富な実務経験を背景に水文学、特に地下水学に知見を有し、2023年度より現在まで公益社団法人日本地下水学会の理事(調査・研究担当)を務める。これまでの主な研究成果に、河川水から涵養を受ける扇状地の地下水収支や水みちを伴う帯水層構造の分析、地球温暖化に伴う熱環境変化の追跡、再生可能エネルギーとしての河川水や湖沼、地下水を熱源に利用するヒートポンプシステムの開発やその普及に伴う環境影響などが挙げられる。後者に関しては環境省「地中熱利用ガイドライン改訂に向けた検討会」委員を務めたほか、現在、NPO法人地中熱利用促進協会の顧問でもある。加えて、令和6年能登半島地震を踏まえ、内閣府「災害時における地下水等活用推進に向けた有識者会議」の委員を務めた。著書に、「クリギング入門」(コロナ社、単著)、「地中熱ヒートポンプシステム改訂版」(オーム社、共著)、「地下水の事典」(朝倉出版、共著)など。これら詳細は、研究室ホームページ(https://yoshitaka-sakata.com/)を参照されたい。
坂本 貴啓	金沢大学人間社会研究域地域創造学系 講師	○			○				○		○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	水辺空間利用 流域治水 水源地域振興 合意形成 かわまちづくり 河川教育 多自然川づくり 市民参加 流域連携	2017年3月筑波大学大学院博士後期課程システム情報工学研究科構造エネルギー工学専攻修了。博士(工学)。国立研究開発法人土木研究所自然共生研究センター専門研究員、東京大学地域未来社会連携研究機構北陸サテライト特任助教を経て2023年10月より現職。 【主たる委嘱歴】 2024年11月-現在:石川県内水面漁場管理委員会 委員 2024年6月-現在:利賀ダム景観検討会議オブザーバー 2023年4月-現在:国立研究開発法人土木研究所招へい研究員 2023年4月-現在:白山手取川ジオパーク推進協議会学術会議委員 2023年7月-現在:特定非営利活動法人地球緑化センター 理事 2023年4月-現在:日本MAB計画支援委員会 2021年6月-現在:愛知県多自然川づくり検討会議、有識者
笹川 みちる	特定非営利活動法人 雨水市民の会 理事	○			○					○	○	○						○	○	○	○		○	雨水活用 グリーンインフラ 環境教育 普及啓発 住民参加型活動コーディネート	特定非営利活動法人雨水市民の会、雨水まちづくりサポート理事。東京大学教養学部文化人類学科卒業、英国イーストアングリア大学開発学修士課程修了。NPOでの活動のほか、日本建築学会あまみず普及小委員会委員として雨水活用・水循環をテーマとした普及啓発活動に従事。市民向けのツール開発、水環境に関する啓発講座企画等に携わり、生活、アート、まちあるきといった多様な切り口で水循環の普及に取り組んでいる。
指出 一正	株式会社ソトコト 代表取締役 ソトコト編集長	○							○			○			○	○	○	○	○	○			○	流域治水 メディア SDGs ウェルビーイング リジェネラティブ 人口減少、関係人口 二拠点、移住・定住 地域づくり、まちづくり 情報発信、コミュニティデザイン エリアリノベーション 環境教育、教育 福祉 地域のPR	『ソトコト』編集長。1969年群馬県生まれ。上智大学法学部国際関係法学科卒業。雑誌『Outdoor』編集部、『Rod and Reel』編集長を経て、現職。島根県「しまコトアカデミー」メイン講師、山形県金山町「カネヤマノジカンデザインスクール」メイン講師、和歌山県田辺市「たなコトアカデミー」メイン講師、福島相双復興推進機構「ふくしま未来創造アカデミー」メイン講師、秋田県鹿角市「かづコトアカデミー」メイン講師、群馬県庁31階「ソーシャルマルシェ&キッチン『GINGHAM(ギンガム)』」プロデューサーをはじめ、地域のプロジェクトに多く携わる。内閣官房、総務省、国土交通省、農林水産省、環境省などの国の委員も務める。経済産業省「2025年大阪・関西万博日本館」クリエイター。上智大学「オールソフィアンスフェスティバル2025」実行委員長。著書に『ぼくらは地方で幸せを見つける』(ポプラ新書)、最新刊は『オン・ザ・ロード 二拠点思考』(ソトコト・ネットワーク)。 https://sotokoto-online.jp/

令和7年度 水循環アドバイザーリスト(有識者)

(別紙3)

氏 名 (敬称略)	所 役 属 職	支 援 分 野																						専門分野	備考 (主な経歴)	
		水循環全般	計画の策定 流域の水循環	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成	民間の取組	地域行政	広域連携			住民参加
柴崎 直明	福島大学共生システム理工学類教授					○	○			○									○	○		○		○	水文地質学 地下水盆管理学	1983年信州大学理学部地質学科卒、国際航業㈱地質調査事業部に入社。1988～1990年インド国立地球物理学研究所(NGRI)客員研究員。1990年国際航業㈱復職。1993年技術士(応用理学)、1997年大阪市立大学にて博士(理学)を取得。2000年国際航業㈱海外事業部主任技師。2004年10月より現職。専門は水文地質学、地下水盆管理学、応用地質学。 民間コンサルタント時代に国内外の地質・地下水関係の実務に携わるとともに、JICA短期専門家(バングラデシュ、エチオピア)として地下水ヒ素汚染対策や地下水シミュレーションの技術移転に取り組む。福島大学着任後は、湧水復活や冬水田んぼ、地盤沈下、地下水塩水化等に取り組む。2013年から福島県廃炉安全監視協議会専門委員(水文地質学)、福島第一原発の地質・地下水問題に関する研究グループ代表。
高嶋 洋	第一工科大学工学部環境エンジニアリング学科教授	○	○	○		○	○	○			○	○					○	○		○		○	○	○	社会地質学 水文地質学 地文学	茨城大学大学院理工学研究科博士後期課程修了、博士(理学)。民間地質コンサルタントを経て千葉県野田市にて環境行政、特に地下水汚染問題や地盤沈下対策を中心に典型7公害、廃棄物、残土石問題等を23年間担当した。この間、環境省に出向。千葉県の技術講習講師を歴任。下水道や道路行政実務の経験も持つ。令和3年4月より現職。同年、地質科学を基礎とした地質汚染調査技術の普及により地質汚染問題の対応と地下水資源の利活用を推進するNPO法人日本地質汚染審査機構の理事長に就任した。日本地質学会の理事を1期、社会地質学会幹事長、同学会編集委員。NPO法人では、現在、継続的に千葉県や茨城県内で行政と共に水循環シンポジウムを開催し、地域の団体との交流を通じ、具体的な地域の水循環に係る意識啓発と理解促進及び研究を推進している。
武山 絵美	京都大学大学院地球環境学堂教授	○	○						○			○												○	農業土木学 農村計画学	1998年京都大学大学院農学研究科修了、博士(農学)。ミュンヘン工科大学農学研究科等を経て、2003年愛媛大学農学部助手、08年同学准教授、17年同学教授。24年4月より現職。専門は農業土木学・農村計画学。食料・農業・農村政策審議会農業農村振興整備部会臨時委員、国土審議会水資源開発分科会吉野川部会専門委員、水循環施策の推進に関する有識者会議構成員などを務める。著書に「獣害対策の設計・計画手法―人と野生生物の共生を目指して(農村計画学のフロンティア)」(共著、農林統計出版)。
辻谷 貴文	全日本水道労働組合書記次長	○			○			○	○		○	○				○		○			○	○	○	○	水道政策 水の労働現場 市民協働 地方行政水リテラシー	大阪市水道局職員を経て、水道事業の運営形態問題や流域課題などを含む水道政策課題に取り組む。現場若手時代に経験した阪神淡路大震災の応急給水や復旧活動で、水道事業・公共サービスの重要性を再認識し、以来「蛇口の向こう・排水口の向こう」を市民・エンドユーザーと共有することをライフワークとする。現在は労働組合活動(全日本水道労働組合書記次長)や市民活動(きれいな水といのちを守る全国連絡会事務局長)など社会運動に取り組む傍らで、「水(上下水道)のリテラシー向上」を事業目的とする株式会社アクアサポーターズの運営を行っている。共著に「安易な民営化のつけはどこに～先進国に広がる再公営化のうごき～」などがある。
辻村 真貴	筑波大学生命環境系教授	○	○			○	○			○		○							○	○					水文学 地下水水文学 トレーサー水文学 環境動態解析 地下水ガバナンス 流域水循環	1993年筑波大学大学院博士課程地球科学研究科単位取得退学。博士(理学)。1995年愛知教育大学助手、2007年筑波大学准教授、2008年内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)付調査員(併任)、2012年4月より現職。専門は水文学、地下水水文学。日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会調査委員、内閣官房水循環政策本部事務局流域水循環アドバイザー、水循環施策の推進に関する有識者会議構成員などを務める。著書(分担執筆)に「自然地理学」(ミネルヴァ書房)など。
中村 晋一郎	名古屋大学工学研究科准教授	○	○		○			○		○	○	○			○	○	○	○		○				○	水文学 水資源学	2008年東京大学大学院 工学系研究科 修士課程修了、博士(工学)。民間建設コンサルタントでの実務を経て、2010年東京大学 総括プロジェクト機構「水の知」(サントリー)総括寄付講座 特任助教、13年同学生産技術研究所 特任助教、14年名古屋大学大学院 工学研究科 専任講師。2018年11月より現職。専門は国土デザイン学、水文学、水資源学。 水と流域の視点から国内外の都市や地域をフィールドに持続可能な国土形成に関する教育・研究を行っている。そのほか市民団体「善福寺川を里川にカエル会(通称:善福蛙)」共同代表等を務め、水辺や健全な水循環の再生に向けた実践を行っている。

令和7年度 水循環アドバイザーリスト(有識者)

(別紙3)

氏 名 (敬称略)	所 役 属 職	支 援 分 野																						専門分野	備考 (主な経歴)	
		水循環全般	計流域の水循環の策定	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成	民間の取組	地域行政	広域連携			住民参加
中村 高志	山梨大学大学院総合研究部 国際流域環境研究センター 准教授	○		○	○	○	○	○		○					○		○				○	○		○	水文学 水質学 地下水 地域の水利用	2008年山梨大学大学院医学工学総合教育部環境社会創生工学専攻修了。博士(工学)。研究員、特任助教、助教を経て2021年より現職。ネパール、カンボジア、ベトナム等の水問題が深刻な地域の調査・研究を展開する一方、地方公共団体(上下水道、環境、産業推進等)に関わる部署)や民間企業との共同研究を複数実施しながら、水資源の実態把握、地域の変革に伴う水マネジメント、水ブランディングに関わる支援を実施している。中山間地域や被災地における水源探索活動等も経験している。甲府市水道水源保護対策協議会委員、甲斐市防災会議委員、山梨県立やまなし地域づくり交流センター運営協議会委員、山梨県廃棄物処理施設設置専門委員会委員などを務める。
中屋 眞司	信州大学 工学部 特任教授・名誉教授	○				○	○			○	○														地下水水文学 水理地質学 トレーサー水文学	1992年岡山大学自然科学研究科生産開発科学専攻修了、博士(工学)。1999年より信州大学工学部助教授、2010年より同学教授を経て、2021年より現職。専門は地下水水文学、地理地質学。日本各地、琉球列島やアフリカ・タンザニアの水文化学・水資源調査を行いつつ、長野市川合新田水源の取水方法等検討専門家会議座長、安曇野市地下水採取審査委員会委員、企業の健全な水循環の取組に関する有識者会議構成員などを務める。著書(分担執筆)に「地下水流動 モンスーンアジアの資源と循環」(共立出版)など。
西田 継	山梨大学 国際流域環境研究センター 教授	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	有機合成 光触媒 公衆衛生 洪水流出 水源林保全 物質循環、エネルギーフロー 地下水汚染、水系感染 現代水文化 地産地消、村落自治、 育・火育、コモンズ 行動心理 人類学	1997年東京大学大学院工学系研究科博士課程を修了。博士(工学)。現在まで山梨大学で勤務。2003-2004年連合王国ウェールズ大学客員研究員、2019-2023年国際流域環境研究センター長。国内外の林地、農地、都市、村落で水・物質循環や健康・生活影響のフィールドワークを行う。2003-2007年21世紀COEプログラム、2008-2012年グローバルCOEプログラム、2013-2019年SATREPS事業(いずれも分担研究者)、2020-2021年aXis事業(代表)、科研費等でバングラデシュ、ネパール、ベトナム、カンボジア、サブサハラ・アフリカ地域の国際流域管理を経験。2019-2021年SOLVE for SDGs事業シナリオ創出フェーズ(代表)、2021-2024年同ソリューション創出フェーズ(代表)で集中型水システムと分散型給排水一体システムの共存を研究。文科省国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム(代表)、JICA-ABEイニシアティブ(代表)、JST-SPRING事業(代表)、文科省SPARC事業、JSTジュニアドクター育成自然塾などで環境学と地域振興の教育に携わる。中央新幹線山梨県内建設発生土活用技術検討会委員、経産省中小企業イノベーション創出推進事業FU委員など政府、自治体、企業の各種専門委員。地下水適正管理協議会特別会員。市民団体「小さな水」代表、「地域資源ラボ連絡会」世話人、「山環塾」塾長、「すいどう塾」塾頭。
野田 岳仁	法政大学 現代福祉学部・大学院 人間社会研究科 准教授	○	○		○	○	○		○		○	○		○	○		○		○	○	○	○		○	水とコミュニティの社会学 環境社会学 地域社会学 観光社会学	2015年早稲田大学大学院人間科学研究科博士課程修了。博士(人間科学)。2002年大学在学中に第3回世界水フォーラム事務局チーフ。2003年第3回世界水フォーラムではオランダ皇太子ら世界のリーダーと50か国1500人の若者を集めた「ユース世界水フォーラム」の責任者を務め、第6回日本水大賞国際貢献賞受賞。立命館大学助教を経て、2019年より現職。各地の水辺を歩き、ゆたかな暮らしを営む人びとの創造性に学びながら、“水とコミュニティ”の社会学を構想している。国や地方自治体への政策提言・伴走支援、民間企業との社会連携活動に取り組み、井戸端の再生によるコミュニティづくりを提唱。最近ではテレビ東京「サンドウィッチマンの井戸を掘る!」の監修・出演など活躍の場を広げている。著書に『井戸端からはじまる地域再生ー暮らしから考える防災と観光』(筑波書房)。共著書に『生活環境主義のコミュニティ分析』(ミネルヴァ書房)、『原発災害と地元コミュニティ』(東信堂)、『Everyday Life-Environmentalism』(Routledge)など。ミツカン水の文化センター機関誌『水の文化』で連載中。専門社会調査士。
漕上 ゆかり	同志社大学文化情報学部 准教授								○								○		○					○	地域研究 フューチャー・デザイン	2013年京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 東南業時阿専攻終了、博士(地域研究)。大阪大学環境イノベーションデザインセンター、未来戦略機構を経て、2020年より大阪大学大学院工学研究科附属フューチャーイノベーションセンター助教。2025年より現職。農学部で学士号、地域研究で修士・博士号を取得し、文理融合的な教育および研究に従事している。近年は大阪府吹田市水道部と「フューチャー・デザイン」を用いた共同研究を行い、水道部職員および市民の、水道に対する意識改革に取り組んでいる。
古米 弘明	中央大学 研究開発機構 機構教授	○		○	○			○		○	○					○		○							都市環境工学 (下水道、都市雨水管理、水環境保全)	1984年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、博士(工学)。茨城大学工学部助教授、東京大学大学院工学系研究科助教授、教授を経て、2022年4月より現職。専門は水環境保全・制御、都市雨水管理、水質評価。厚生科学審議会委員、中央環境審議会委員、国土審議会専門委員、水循環施策の推進に関する有識者会議構成員などを務める。主な著書に「水システム講義：持続可能な水利用に向けて」(共著、東京大学出版会)、「水辺のすこやかさ指標“みずしるべ”：身近な水環境を育むために」(編著、技報堂出版)、「森林の窒素飽和と流域管理」(編著、技報堂出版)など。 日本水環境学会学術賞、日本水環境学会学会賞、環境保全功労者表彰を受賞。

令和7年度 水循環アドバイザーリスト(有識者)

(別紙3)

氏 名 (敬称略)	所 属 役 職	支 援 分 野																						専門分野	備考 (主な経歴)	
		水循環全般	計画の水循環	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成	民間の取組	地域行政	広域連携			住民参加
星川 圭介	公立大学法人 富山県立大学 教授				○				○	○	○		○				○								農業土木学(灌漑・排水) 地域計画 地理空間情報	2003年京都大学大学院農学研究科修了、博士(農学)。在学中に文部科学省アジア諸国等派遣留学生としてタイに2年間滞在。総合地球環境学研究所、京都大学を経て現職。インドシナ半島における伝統的な農業水利用の技術や戦略に関する研究、半乾燥地における灌漑・排水分布型モデルの開発と同モデル適用を通じた温暖化影響評価、チャオプラヤデルタ農村地帯における住民レベル洪水対応の実態調査、衛星リモートセンシングによる湖沼の水質推定など、国内外における様々な治水・利水関連研究に従事してきた。北陸地方整備局富山ブロック総合評価審査委員会、農林水産省農業農村整備分野の情報化施工・3次元データ活用推進委員会、富山県農業用水事故防止対策推進会議、富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議、都市マスタープラン検討委員会、黒部市水資源対策協議会、黒部市環境審議会等の委員を務める。
宮津 進	新潟大学自然科学系(農学部) 准教授	○			○					○		○													農業土木学 灌漑排水工学 水文学	2014年新潟大学大学院博士課程修了、博士(農学)。(国研)産業技術総合研究所、(国研)農研機構農村工学研究部門を経て、2019年新潟大学自然科学系(農学部)助教、2024年より現職。専門分野は、農業土木学、灌漑排水工学、水文学であり、主に農地および農業水利施設を活用した流域治水対策に関する研究を行っている。国際かんがい排水委員会日本国内委員、日本ICID協会若手かんがい排水技術者フォーラム代表などを務める。
山村 寛	中央大学 理工学部 教授	○		○	○		○	○	○		○						○	○	○	○				○	水環境 水質変換技術 上下水道 サーキュラーエコノミー	2008年北海道大学大学院博士課程を早期修了。博士終了後、科学技術コミュニケーター養成ユニットで科学技術コミュニケーターの資格を取得。2009年から、旭化成に入社し、静岡県富士市で水処理膜を作る研究に従事。2012年に、中央大学理工学部に新学科 人間総合理工学科 の設置に伴って、着任。2015年に准教授、2020年に教授に昇格し、現在に至る。その間、水分野の若手組織である、Japan young water professionalsにて共同代表を務めた他、世界水会議(IWA)でAsia-Pacificの運営委員で、産官学、国を超えた若手のエンカレッジと連携に従事した。2008年には、日本水環境学会にて、第2回博士研究奨励賞(オルガノ賞)を受賞した他、2015年には、日本水環境学会にて、日本水環境学会論文奨励賞(廣瀬賞)を受賞。産業財産権(知財)は20件を超え、実用化した技術も複数保有する。いつでも、誰でも必要な水質を届けることをモットーに、膜技術を中心としたイノベーション研究に従事している。
山田 佳裕	香川大学農学部応用生物科学科 教授	○		○	○	○	○				○			○			○								水環境科学 陸水学 生態学	1997年京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了、博士(理学)。1998年日本学術振興会特別研究員(京都大学生態学研究センター)、1999年科学技術振興事業団科学技術特別研究員(水産庁養殖研究所)、2000年香川大学農学部助手、2002年同助教授を経て、2014年より現職。専門是水環境科学、陸水学、生態学で、河川や湖沼などの淡水域に加えて、汽水域や海洋と幅広い水域の水循環、物質循環、生態系を研究対象にしている。ダム水源地環境センター水源地研究会委員などを務める。主な著書は、水・物質循環系の変化(岩波講座地球環境学、岩波書店、共著)、陸水環境化学(共立出版、共著)等。自治体との共同研究も積極的に行っており、香川県とは河川環境に関する共同研究を、西条市とは地下水利用や涵養源に関する共同研究を、大野市とは気象と地下水に関する共同研究を行っている。また、大野市とは連携協力協定を締結し、定期的に市民を対象にした水環境の講義を行っている。
吉富 友恭	東京学芸大学 環境教育研究センター 教授													○	○			○		○					河川生物学 環境展示論	1998年東京水産大学大学院水産学研究科修了、博士(水産学)。科学技術振興事業団科学技術特別研究員、土木研究所水循環研究グループ(自然共生研究センター)研究員を経て、2004年東京学芸大学環境教育実践施設助教授、2007年准教授。2018年環境教育研究センター教授。専門は河川生物学、環境展示論。水循環施策の推進に関する有識者会議構成員を務める。著書に「魚のウロコのはなし」(成山堂)、「展示論」(共編著、雄山閣)、「環境の学習と観測にもとづいたグローブプログラムの理論と実践」(共編著、古今書院)など。
渡辺 亮一	福岡大学工学部 社会デザイン工学科 教授	○	○	○	○					○	○	○		○										○	応用生態工学 水工学 河川工学 水環境工学	1997年九州大学大学院博士課程修了、博士(工学)。福岡大学工学部准教授等を経て2015年より現職。専門は応用生態工学、水工学、河川工学、水環境工学。国土交通省九州地方整備局九州河川技術懇談会委員、国土交通省うおいのある川づくり技術向上検討会委員などを歴任。最近では、有明海におけるフルボ酸鉄シリカ資材を用いた干潟再生に関する研究を行うとともに、都市域での水循環を再生する目的で、福岡大学に建設された仮設人工芝サッカー場および自宅における雨水貯留・浸透に関する研究などを行っている。また、地域住民と協働で樋井川における定期清掃活動なども行っている。
吉田 武郎	国立研究開発法人 農業・食品産業技術 総合研究機構 農村工学研究部門 上級研究員	○			○												○								水文学 農業水理学	2004年東京農工大学大学院農学環境工学専攻修了、博士(農学)。農村工学研究所研究員、アリゾナ大学客員研究員を経て、現在、農業・食品産業技術総合研究機構 上級研究員。専門是水文学、農業水理学。気候変動による水資源の変動に関する評価に加え、農業水利用と流域水循環の相互作用の理解について研究を進め、持続的な農業生産と水資源管理の両立に向けて活動。

令和7年度 水循環アドバイザーリスト(有識者)

(別紙3)

氏 名 (敬称略)	所 役 属 職	支 援 分 野																						専門分野	備考 (主な経歴)
		水循環全般	計流域の水循環の策定	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成	民間の取組	地域行政	広域連携		
内山 雄介	一般社団法人 流域水管理研究所 流域水マネジメント普及プロモーター	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○				○						○	河川工学 水循環・物質循環 総合治水、流域治水、流域対策	1999年3月東京工業大学修士課程修了。現在、日本工営株式会社本社流域マネジメント室室長。流域水循環マスタープラン、特定都市河川浸水被害対策法、流域別下水道整備総合計画などの検討業務に主に従事。また、2013～2018年には、法政大学デザイン工学科で「河川環境工学(2年生)」の授業を担当。2020年より、①講演会等を実施し、流域水マネジメントの考え方や取り組み方を普及する活動、②流域水循環計画策定自治体と連携し、誇れる取組の共有や隘路事項等を把握する活動、③計画未策定自治体に対して、計画策定の実務的サポートをする活動を行う、一般社団法人流域水管理研究所の同流域水マネジメント普及プロモーターとして活動。
上原 浩	一般社団法人 流域水管理研究所 流域水マネジメント普及プロモーター	○	○	○	○	○	○				○						○							水環境・水循環・物質循環 水質保全(河川、湖沼、ダム) 利水 気候変動	2000年3月広島大学大学院工学研究科修士課程修了。現在、パンフィックコンサルタンツ株式会社国土基盤事業本部河川部流域計画室技術課長。流域水循環計画、水域全般での水質保全、河川環境保全、利水・低水・定常流量検討、及び気候変動影響・適応策などの検討業務に従事。2020年からの一般社団法人流域水管理研究所の同流域水マネジメント普及プロモーターとしての活動については同上。
名本 伸介	一般社団法人 流域水管理研究所 流域水マネジメント普及プロモーター	○	○	○	○	○	○			○	○	○												河川工学 水循環、水環境 利水計画 低水管理	2005年3月東京工業大学修士課程修了。現在、株式会社東京建設コンサルタント東京本社水管理本部本部長。河川計画分野において利水計画、低水管理計画、水循環、水環境などの検討業務に主に従事。2020年からの一般社団法人流域水管理研究所の同流域水マネジメント普及プロモーターとしての活動については同上。
石井 邦宙	一般社団法人 流域水管理研究所 流域水マネジメント普及プロモーター	○										○												流域水マネジメント (情報の利用と運用)	1996年3月九州大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻修士課程修了。現在、アジア航測株式会社社会基盤システム開発センター副センター長。空間情報技術を専門とし、防災、環境、社会インフラ管理などの幅広い分野で、空間情報の取得、分析、活用に関する検討業務に従事した経験を持つ。2020年からの一般社団法人流域水管理研究所の同流域水マネジメント普及プロモーターとしての活動については同上。

令和7年度 水循環アドバイザーリスト(先進的に取り組む地方公共団体)

(別紙3)

地方公共団体及び部署名 (担当者氏名(敬称略))	支 援 分 野																								備考 (流域水循環計画の概要)
	水循環全般	計画域の水策循環	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成	民間の取組	地域行政	広域連携	住民参加	その他	
熊本県 環境生活部 環境局 環境立県推進課 (北之園健憲、山本裕典、原口靖史 児成憲佑、増永妃佳璃)		○		○		○			○								○		○	○		○	○		熊本県地域地下水総合安全管理計画、第3期行動計画(令和2年1月公表) (1)水道水源のほぼ100%を地下水に依存する熊本地域(熊本市を含む周辺11市町村)において地下水をメイン課題とした総合的な計画。 (2)特殊な地質構造により、一般的な水田の5倍の浸透力を持つ白川中流域における湛水事業などの地域の実情に沿った取組を推進。 (3)管理計画策定時と比較して地下水位や湧水量が改善傾向にあることから、第2期行動計画の考え方を継承し、効果の高い施策・事業の着実な推進と更なる施策展開の検討等を実施。
仙台市 建設局百年の杜推進部百年の杜推進課 (庄司 明浩)																						○			広瀬川創生プラン(令和2年12月公表) (1)本計画は、「杜の都・仙台」のシンボルであり、市民の誇りである広瀬川を後世に引き継いでいくべき市民共有の財産として再認識し、将来にわたって保全していくとともに、新たな魅力の創出を図るためのアクションプランとして策定。 (2)市民・NPO・行政が実施する事業を集約・体系化し、各主体の自発的な取組の推進を図るため、協働手法や各主体に期待される役割分担を個別具体的に明示。 ※令和3年3月に中間見直しを行い、推進体制を下記のとおり見直した。 なお、令和6年度にはプランの改定を予定している。
さいたま市 環境局 環境共生部 環境対策課 (田中 孝幸)		○							○	○														○	第2次さいたま市環境基本計画別冊 水と生きものプラン(令和3年4月1日 改訂) (1) 一層の都市機能の集約が見込まれる一方で、見沼田圃などの貴重な自然資源を有するさいたま市の水環境の課題に対し、生物多様性の課題と一体化して取り組む、総合的な計画。 (2) さいたま市水環境ネットワーク、水辺のサポーター等の市民団体や事業者との協働により水循環に関する取組を推進。
秦野市 環境産業部 環境共生課 (谷 芳生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		環境影響評価、自然公園、緑地保全、野生鳥獣等、生物多様性、森林保護、林業振興、里地里山里川、再生可能エネルギー 秦野市地下水総合安全管理計画(令和3年3月公表) (1) 水道水源の約70%を地下水に依存する秦野市において地下水・湧水をメイン課題とした総合的な計画。 (2) 環境省による名水百選選抜総選挙において「おいしさが素晴らしい名水部門」で第1位となった地下水の質と量の保全に関する取組。 (3) 令和3年に「行政主導の施策から市民力を生かした施策へ」という視点から、地域で活躍する秦野名水の名人にスポットを当て改定。
大野市 くらし環境部 環境・水循環課		○			○	○																			大野市水循環基本計画(令和3年2月公表) (1)「第六次大野市総合計画」の将来像『人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち』を実現していくため、各種個別計画における水に関する施策と整合を図り、水循環に関する施策を総合的かつ一体的に推進するために策定した計画。 (2)大野市は、九頭竜川の最上流に位置することから、きれいで豊富な水を下流に送ることを重要な役割と位置付け、最上流部に住む者の責務を果たすべく、流域マネジメントに関する取組を推進。
安曇野市 市民生活部 環境課 (百瀬 正幸)	○	○			○	○			○	○			○				○		○	○		○	○		安曇野市水環境基本計画及び安曇野市水環境行動計画(令和4年3月公表) (1)計画の概要 松本盆地の最下流に位置し、豊富な湧水の恩恵を受けている安曇野市における地下水資源の保全に関する計画。環境省による名水百選選抜総選挙において「観光部門」「景観部門」の両部門で2冠を獲得した 地下水の質と量の保全に関する取組。 (2)計画の特徴 地下水保全の取組を進めるため、信州大学と連携し、地下水の見える化や将来像の予測について科学的裏付けを整理し、費用負担ルールなどの合意形成等を推進。 (3)改定のポイント 水道水源の 100 %を地下 水に依存する 安曇野市 において、市民、団体等における自主的な水環境保全活動を登録する制度を設けて改正。
豊田市 上下水道局 企画課 (相内 香穂)										○							○								水環境共働ビジョン～地域が支える流域の水循環～(平成29年4月公表) (1)計画の概要 平成17年における市町村合併により、矢作川の上流域の大部分を占める豊田市における水環境をメインとした総合的な計画 (2)計画の特徴 市内を「水源・涵養域」、「湧出・水利用域」「流出域」の3つに分割し、地域ごとに現状と課題を整理し取組を推進。

令和7年度 水循環アドバイザーリスト(先進的に取り組む地方公共団体)

(別紙3)

地方公共団体及び部署名 (担当者氏名(敬称略))	支 援 分 野																							備考 (流域水循環計画の概要)		
	水循環全般	計画流域の水循環	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成	民間の取組	地域行政	広域連携	住民参加		その他	
西条市 環境部環境政策課		○				○											○						○		西条市地下水保全管理計画(令和2年12月公表) (1)計画の概要 西条市にとって不可欠な水資源であり、「うちぬき」や湧水を活用した水環境とそれを織りなす文化を形成する「地域の宝物」でもある地下水の水量・水質を保全するための施策を推進する計画。 (2)計画の特徴 先進的・継続的に行われてきた地下水調査を踏まえ、健全な水循環を実現するため、市民の共有財産としての性質を持つ地下水を「地域公水」と位置付け、市民・事業者と行政が一体となって「うちぬき文化」の継承と発展に資する管理のあり方を提案。	
熊本市 環境局 環境推進部 (永田 努)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		第3次熊本市地下水保全プラン(令和2年12月公表) (1)計画の概要 水道水源のほぼ100%を地下水に依存する熊本市において地下水をメイン課題とした具体の行動計画。 (2)計画の特徴 熊本市の地下水保全活動は「平成20年日本水大賞グランプリ」、「国連“生命の水”最優秀賞(2013年)」を受賞した国際的にも評価された取組。

西条市地下水保全管理計画(令和2年12月公表)

(1)計画の概要
西条市にとって不可欠な水資源であり、「うちぬき」や湧水を活用した水環境とそれを織りなす文化を形成する「地域の宝物」でもある地下水の水量・水質を保全するための施策を推進する計画。

(2)計画の特徴
先進的・継続的に行われてきた地下水調査を踏まえ、健全な水循環を実現するため、市民の共有財産としての性質を持つ地下水を「地域公水」と位置付け、市民・事業者と行政が一体となって「うちぬき文化」の継承と発展に資する管理のあり方を提案。

第3次熊本市地下水保全プラン(令和2年12月公表)

(1)計画の概要
水道水源のほぼ100%を地下水に依存する熊本市において地下水をメイン課題とした具体の行動計画。

(2)計画の特徴
熊本市の地下水保全活動は「平成20年日本水大賞グランプリ」、「国連“生命の水”最優秀賞(2013年)」を受賞した国際的にも評価された取組。